③個人追究:図や表をもとに，変わり方のきまりを説明する。

②学習課題：「だんの数」を順にふやしたときのまわりの長さを，図や表で調べて，変わり方のきまりを見つけよう。

②見通し:10だんのときはすぐには分からない。

→変わり方を表にまとめると分かりやすい。

①本時を構想する上でポイントとなる素地

○問題解決のための知識・技能

・図をもとに，2量の関係を表に表すことができる。

・前時に□と○を使って関係を式に表すことを学習している。

○既習とつなぐ見方・考え方

・本単元で変化と対応の見方を学習している。

教材研究ノート№4-C-2

④共同追究後半（思考を深める）

「右の図のように，正方形の

周りの長さに置き換えて考

えた友だちがいるが，本当に同じなのだろうか？」

→「表をつくってみると，2つは同じ表になる。」

「正方形の周の長さは，１辺×4だから，だんで考えたときと式が同じになるから同じだ。」

「別のものと思ったが，2つの辺をずらすと正方形になる。」

④共同追究前半（解法の比較検討）

「見つけたきまりに共通していることは何だろう？」

→「周りの長さは，だんの数の4倍になっている。」

≪学習問題≫

1辺が1cmの正方形を並べて右のような階だんの形をつくっていきます。

10だんのときの，まわりの長さを求めましょう。

1だん

2だん

3だん

4だん

4だん

⑤まとめ（児童生徒の言葉で）

・表を作ってきまりを見つけると，図をかかなくても10だんのときがわかる。

・□×4＝○の式を活用すると，何だんでも計算できる。

・同じきまりのわかりやすい図に直すと，考えやすい。

⑥定着･活用問題

4だんの求め方を3通りの方法で説明しましょう。

≪定着・活用問題≫

授業計画･実施記録

主眼

≪学習問題≫

＜本時の展開に当たっての留意点＞

・表から帰納的に見つけたきまりが成り立つ理由を，具体的に図の中ではどこにあたるか等，図を用いて演繹的に説明する学習の流れを大切にしたい。

・黒板に1辺10㎝程度の正方形を階段状に貼りながら問題理解を促した後，正方形を各自に30枚ほど配り，実際に作りながら考える時間を確保したい。